

料金別納郵便



川崎 毅 遺作展

—夢の街と白い器—

令和7年7月5日(土)~10日(木) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日10日は午後5時まで)

小池頌子在廊日：7月5日(土)、6日(日)、9日(水)、10日(木)

陶歴	昭和17年	宮崎県に生まれる
	昭和43年	東京藝術大学大学院 陶芸専攻 修了
	昭和44年	多摩市に築窯、陶芸家の小池頌子と結婚
	昭和53年	ギャラリー・ユマニテ(名古屋)にて初個展
	昭和58年	「Japanese Ceramics Today」(スミノアン博物館/ワシントンDC、 ヴィクトリア&アルバート美術館/ロンドン)
	平成22年	「福島サト子コレクション 川崎毅展1」(大阪市立東洋陶磁美術館)
	平成24年	「川崎毅・小池頌子展」(和光/銀座)
	平成26年	「陶の空間・草木の空間 川崎毅と関島寿子」展(菊池寛実記念 智美術館)
	平成30年	「川崎毅と矢野静明」(宮崎県立美術館)
	令和5年	逝去(享年81)

川崎毅は欲のない純粹無垢な人である。だから賞が欲しいとか、有名になりたいとか、そういう野心を持たない。常に淡々として自分の造りたいものを作る。そういう作家である。

川崎の代表作である「街シリーズ」にはセザンヌの風景画の影響があり、その特徴は四角や三角を用いて幾何学的に構成されていることだが、川崎の立体作品にも同じような四角や三角の造形が見られる。セザンヌの風景画は柔らかな陽光の中に深い奥行きが感じられ、川崎の立体作品はややくすんだ白い家や、街並みに差し込む光によって静寂な時間と深い陰影を表わしている。この作品「街」は、方形の家、階段、真鍮のボール、ボールなどが配され、川崎の夢の街が表現されている。一方、呉須とベンガラで絵付けされた磁器の器は大学院時代から制作しているものだが、そこには自転車や椅子、草花など川崎の好きなものが描かれている。一度使ったら、また使いたくなる器である。今展には、「街」シリーズのほか「郊外(雲)」や「函」シリーズ、皿や鉢、高坏や珈琲碗、花瓶などが多数出品される。 森 孝一(美術評論家・日本陶磁協会 常任理事)

柿ヶ谷ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

公式Instagram



